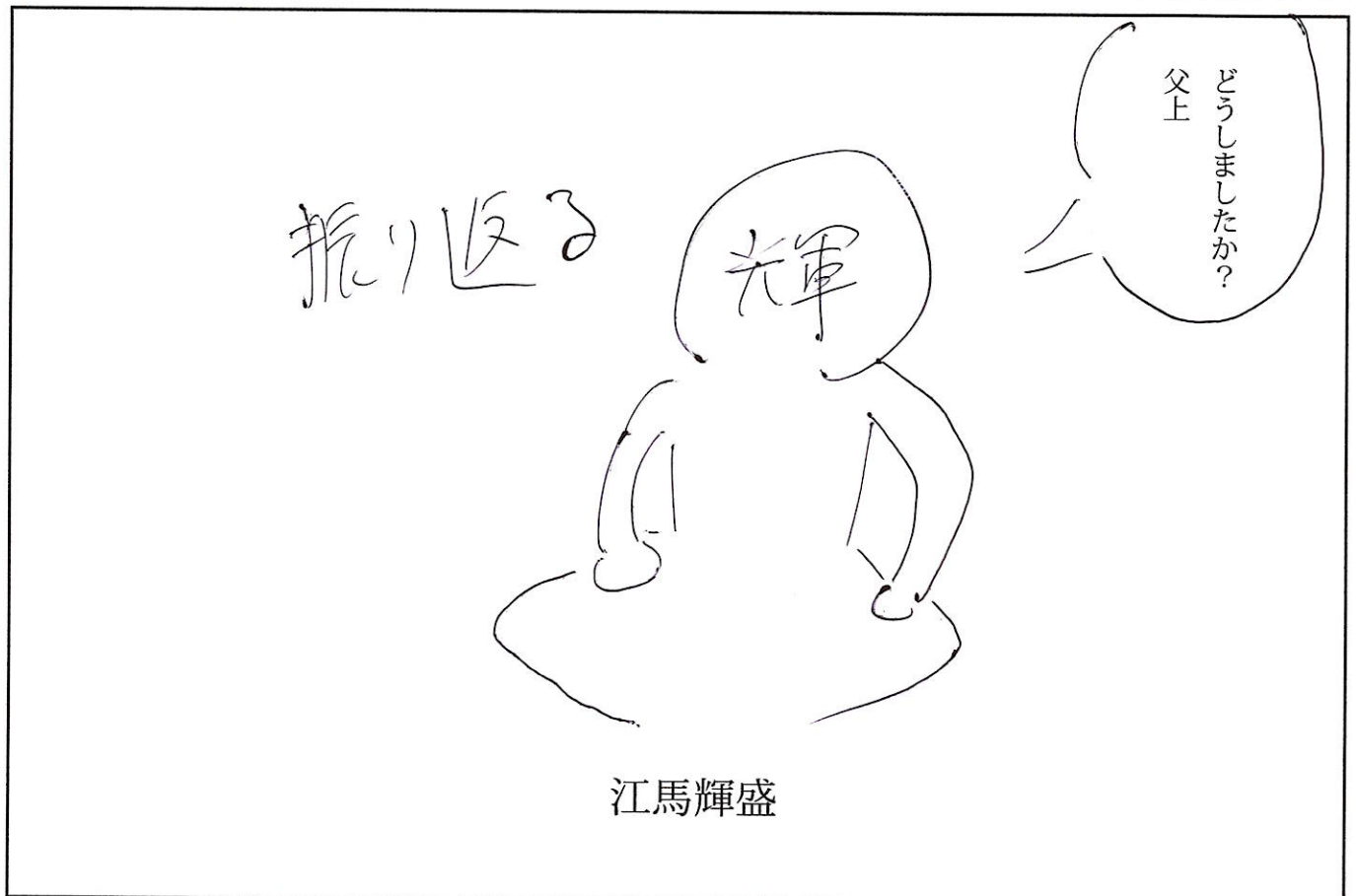
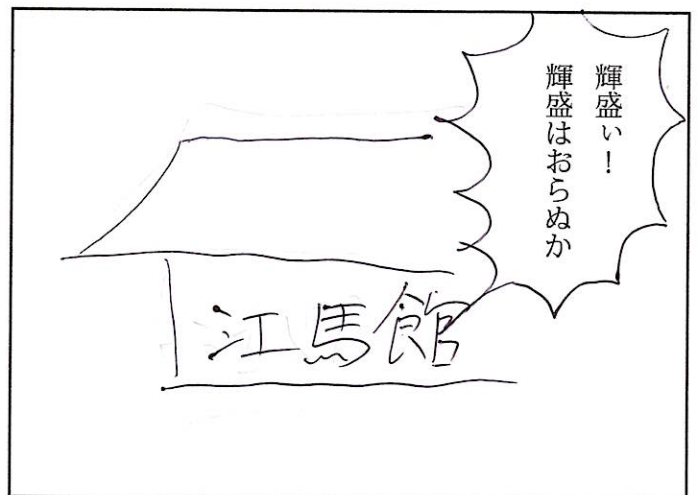
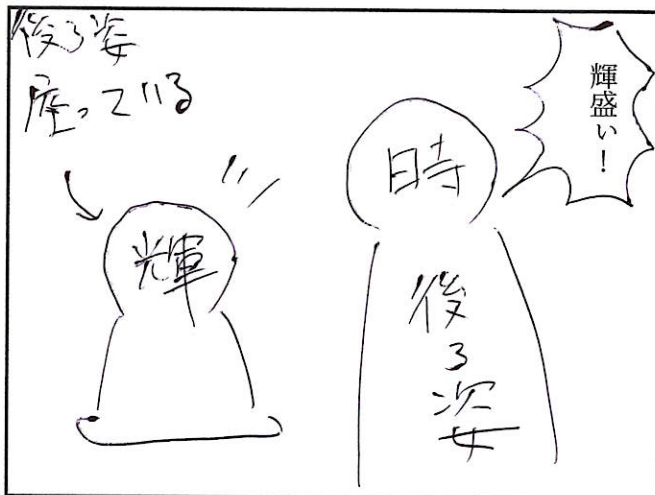
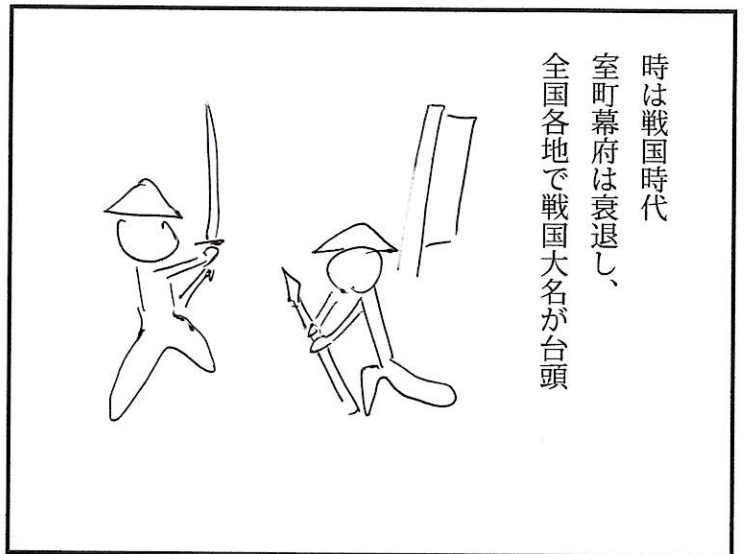
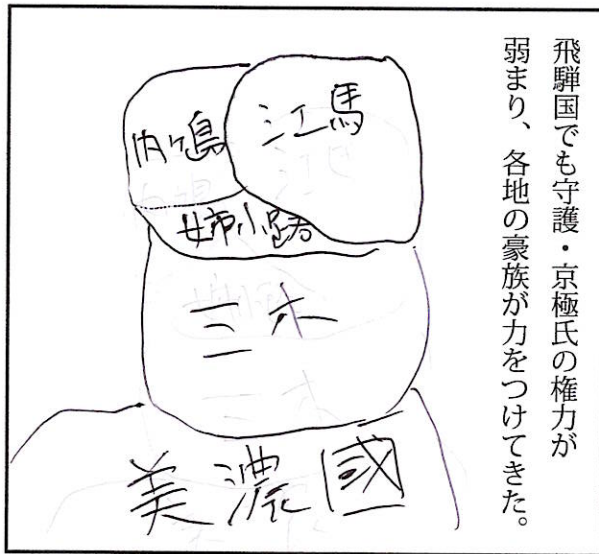






何故、ワシの言うことが聞けぬのじゃ



十五代当主
江馬時盛

お言葉ですが
父上は判断を
見誤っております



この先、上杉方に
つくべきでございます



なにを



二男
江馬信盛

父上、兄上
おやめください



小馬鹿にして

天文二十二（一五五三）年
越後国の上杉謙信と
甲斐国の武田信玄とが
戦を始めた。
世に名高い
「川中島の戦い」である

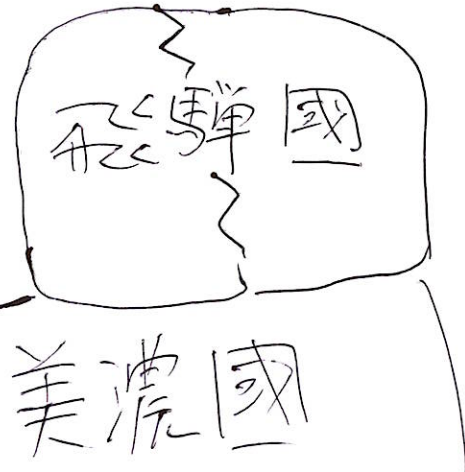


十二年も続いたこの合戦は、
飛騨国でも他人事ではなかった

戦国時代を代表する両雄から
援軍を得て飛騨統一を目指す為
飛騨の豪族たちは上杉派・武田派
に分かれて争っていた



武田派



美濃國



上杉派

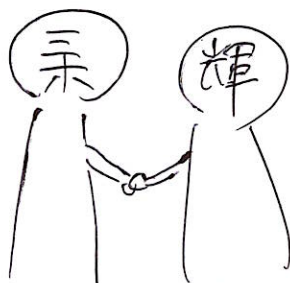
父・時盛は武田派だったが
武田派



父・時盛は武田派だったが

輝盛は上杉派だった

上杉派 国



同じ上杉派の三木氏と
手を組み度々、父・時盛と
小競り合いを起こしていた

ところが、永禄七（二五六四）年

これ以上、上杉の
好きにはさせん



武田家
山県昌景

武田家の名将・山県昌景が
飛騨国へ攻め入ったのである

もはやこれまでか



武田四天王と呼ばれる
山県相手には、さすがの
輝盛も屈するしかなかった

父・時盛は、武田氏への

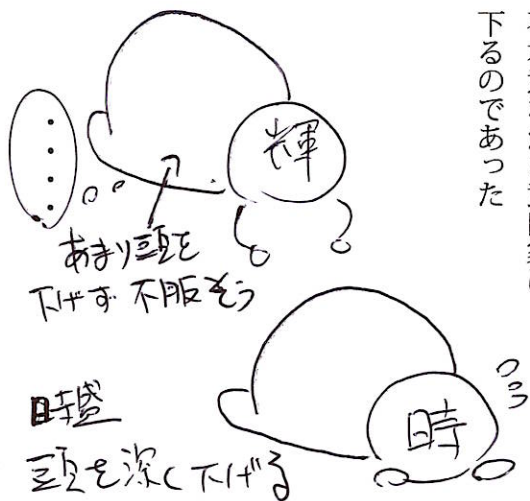
忠誠を示す為

二男・信盛を人質として献上



後はお願いたします

これで時盛と共に
不本意ながら武田家に
下るのであった



お利頭を
下す 不服そう

時盛

頭を深く下げる

二人とも土下座

翌年ー

勝ち鬨を
あげよー



武田氏は、江馬氏を先陣に
して越中（富山県）に攻め入り
松倉城主・椎名氏を撃破



オー！

兵士たちもカを上げる

輝盛・時盛は戦功を挙げ、
信玄から中地山（富山市大山町）
七万石を預けられる
ようになった



しかし輝盛の躍進を
快く思わない者もいた

父・時盛である



あやつは、まだ上杉に
内通しているかもしれぬ

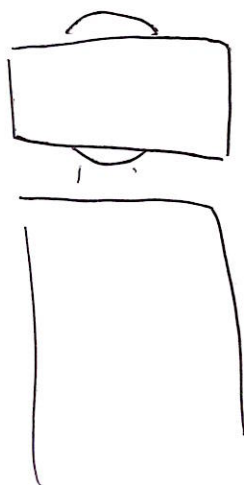


時盛は輝盛のことを認めていなかった

元龜四（一五七三）年

武田信玄が病死

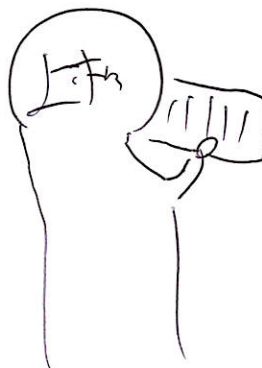
武田



信玄は武田家の衰退を恐れ
自分の死を三年間隠そうとしたが、

輝盛は上杉方に誰よりも早く
信玄の死を伝え、上杉へ寝返った

惜しい人を
無くしたものよ



しかし戦国時代は大きく動いていた



織田信長の躍進である

同年、將軍・足利義昭を追放し、
室町幕府を滅亡させた

天正三（一五七五）年、
長篠の戦いでは、火縄銃を使い
無敵と呼ばれた武田の騎馬隊を圧倒

三年後には上杉謙信も亡くなり
誰も信長を止める者がいなくなった



謙信公が亡くなった今、
織田方に付かねば



戦国時代において、小国の武将は
強い大名につくことで自分たちの
領土を守っていたが、輝盛はその
バランス感覚が非常に優れていた。

しかし江馬家の存続の為とはいえ
寝返りを繰り返す輝盛と父・時盛
との言い争いは絶えなかった



もう我慢ならん

時

奴のことは絶対に
跡取りと認めぬぞ

そうじゃ、信盛を
返してもらおう

時

信

人質として武田家に出された
次男・信盛は武田家で数々の
功績をあげる武将に成長して
いた

飛驒に呼び寄せるが、



私は結構です

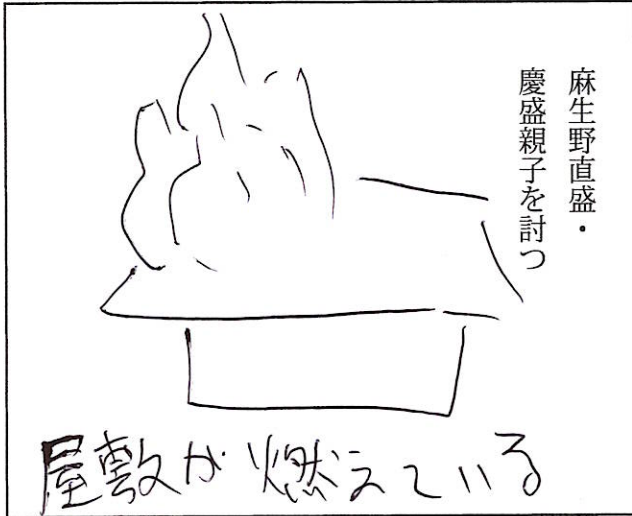
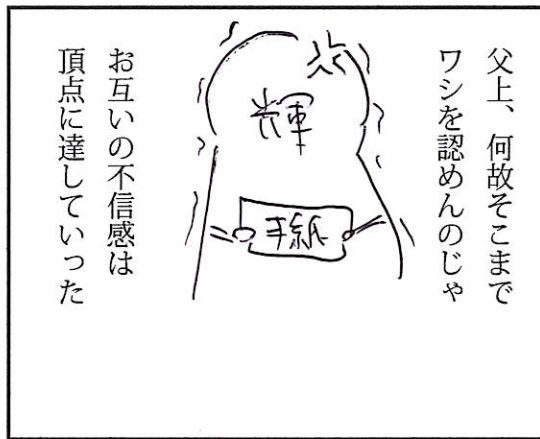
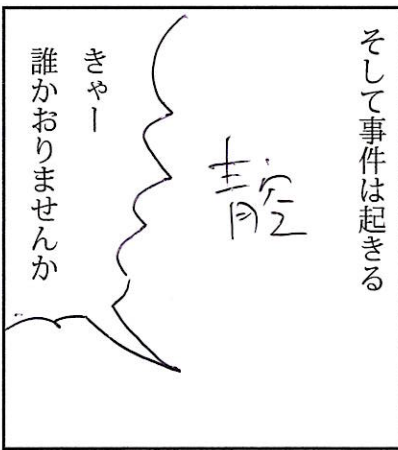
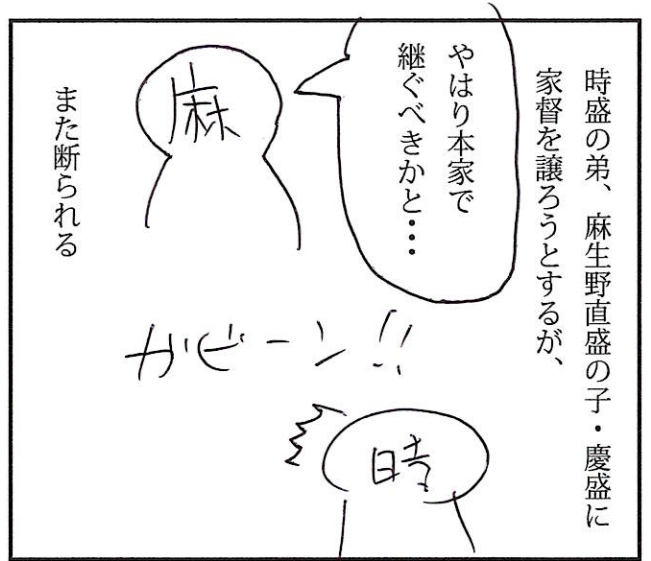
兄上は嫡男で武勇にも
優れておりますし、
適任かと思えます

ガン!!

時

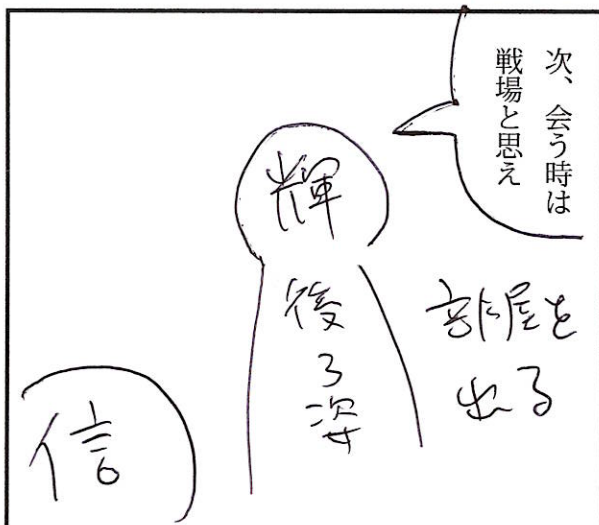
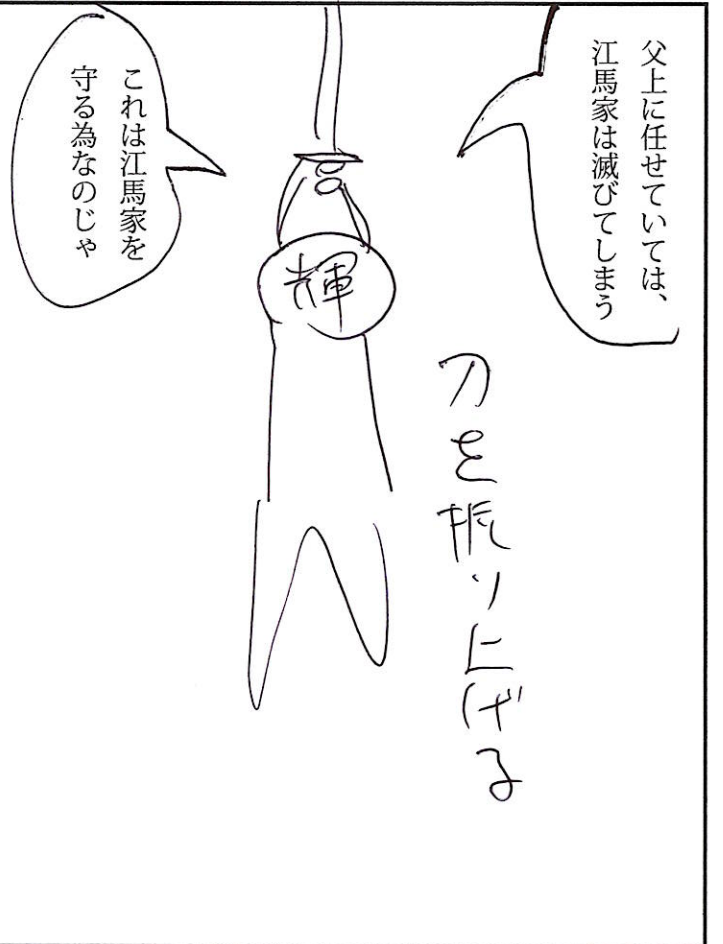
兄上に逆恨み
されそうだし

時盛、泣きながら

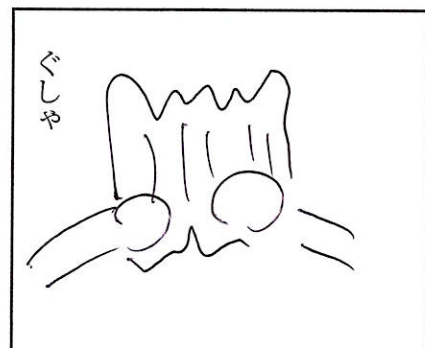
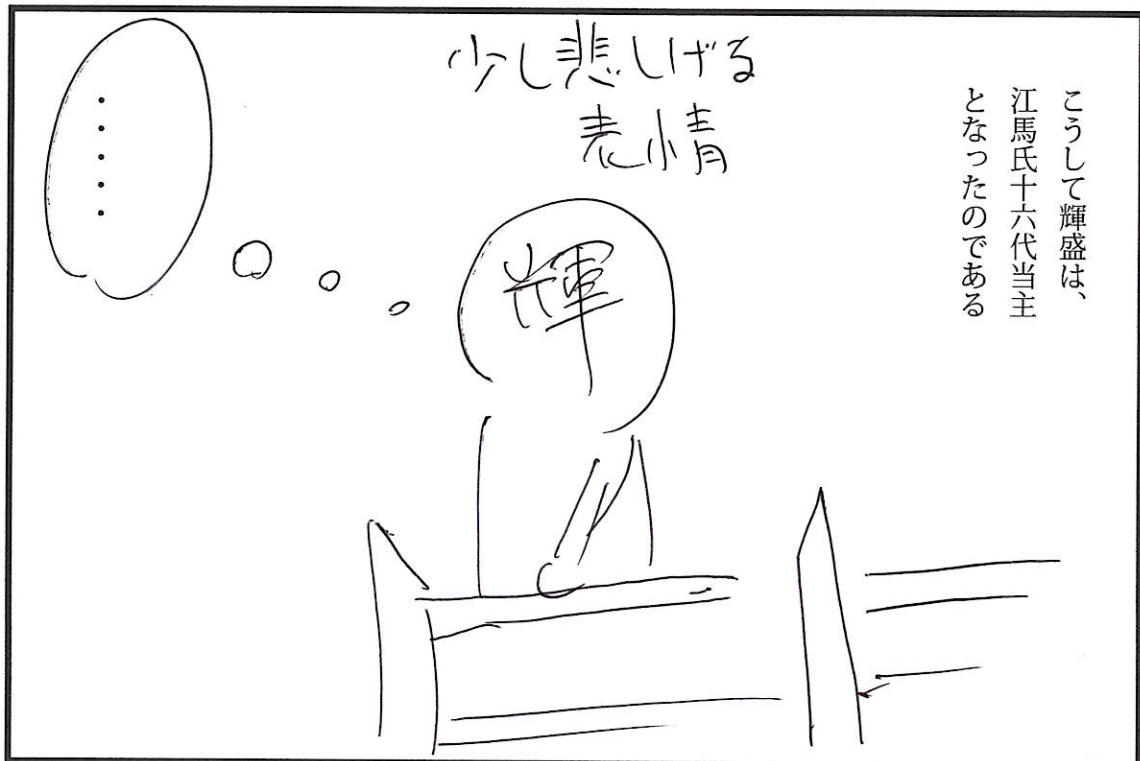
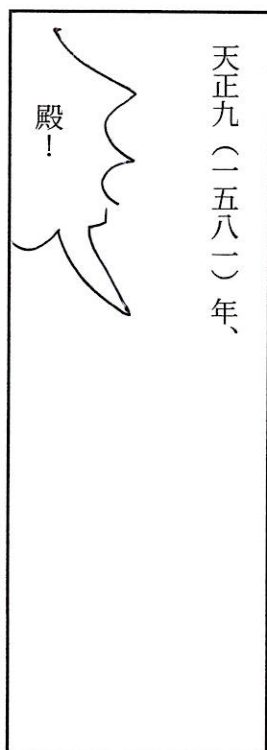




信成
目をつぶって勘定

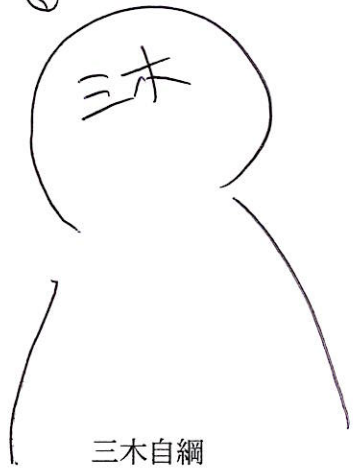


信盛と信成と信成



不敵な笑い

南飛驒を支配している
三木（姉小路）氏の存在である



三木自綱
(姉小路頼綱)

しかし飛驒の統一には
大きな壁があった

どんな手をつかおうとも
必ず飛驒を統一してみせる



この戦国時代、
仁義だけでは
生きていけぬのじゃ



越中（富山）方面を中心に領土を
増やしていった江馬氏に対し、

三木氏は、古川町を治めていた公家の
姉小路氏が分裂し衰退したのに乗じて
姉小路家の乗っ取りに成功



得意な顔

三木自綱は、信長と同じく齊藤道三の娘を
妻に迎えていることもあり、信長の力を
借りて力をつけてきた。



飛驒南部を治める三木氏は着実に
飛驒内の領土を増やしていった

しかし千載一遇の
チャンスがやってきた
天正十(一五八二)年六月、
本能寺の変である

敵は
本能寺にあり

明智光秀の謀反により、
信長は急逝

人生五十年

信長の死で全国の勢力図も
大きく変化

光軍

飛騨を統一するには
今しかない!

同年十月、
輝盛、拳兵

いざ出陣じゃー!

千光寺記に
こう記されてある

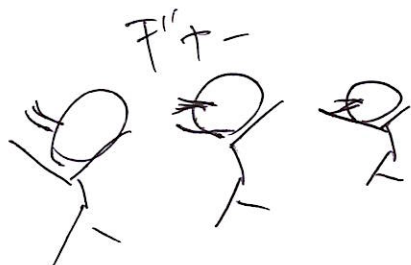
(光軍)

器用骨柄人に傑れ、
誠に武勇に達すると
いえども仁義を知らざる
血気の勇者なり

馬に乗って
一文字の槍を
持っている

八日町（高山市国府町）で
両雄が激突

花の慶次 ぼりに
敵をなぎ倒す



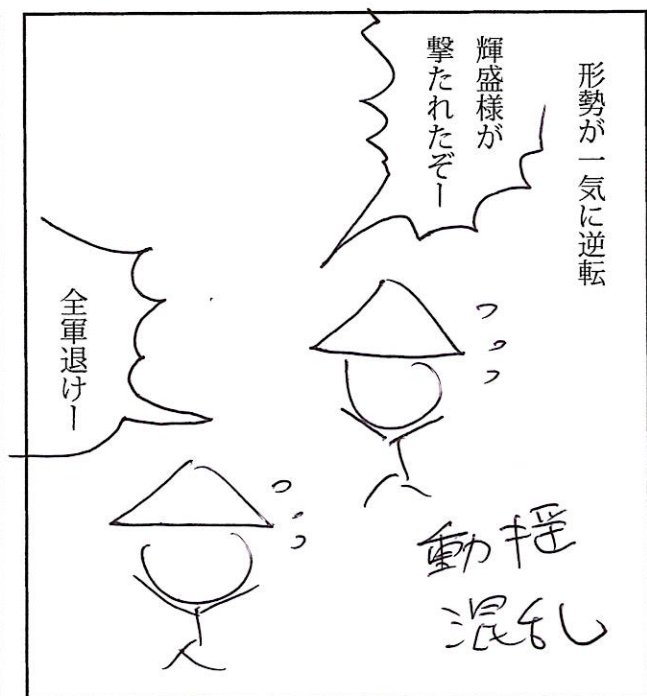
この戦いは「八日町の戦い」と呼ばれ、飛騨統一を目指す江馬氏・三木氏が激しく争い後に「飛騨の関ヶ原」と称された



輝盛様に続けー

オホ

一進一退の攻防が続く中、



形勢が一気に逆転

輝盛様が
撃たれたぞー

全軍退けー

動揺
混乱

もはやこれまでか……

ハア
ハア

ガサッ

草子むらから人目より

